

第4回総合部会 主要意見

日時：H21.1.19（月）14:30－17:30

場所：県庁6階第2会議室

1. ビジョンの意義、大切な要素について

- ビジョンはシンプル、クール、ハピネスであるべきだ。県民みんなが目指すべき沖縄の姿を明確に示すことで、県民に「沖縄理念」を喚起、自覚させることが大切である。
- ビジョンを浸透させる手段として、クレドを提案する。クレドは全員総意のもとにあるべき姿、心得を示したものであり、マニュアルではない。あるべき沖縄の姿を描くビジョンと共通した部分がある。想いを形にする、リスクを背負うことも含めた価値観を共有することが大切。
- 今までの計画、ビジョンなどは過去の動向を踏襲して将来を展望してきたが、激変する現在は過去にこだわらず、あるべき姿を想定して、そこに向かって現実のベクトルを修正することにビジョンの意義がある。
- ビジョンの考え方は大枠だが、あるべき姿を想定することに意義がある。
- ビジョンには、思想性、宣言的要素の2つが大事だと思う。
- ビジョンににじみ出てくる沖縄の思想が大切である。例えば、ぬちどう宝は生命、人権、平和の思想、いちやりばちよーでーは交流、友好、外交、ゆいまーるは相互扶助、セーフティネットなどの思想性がある。
- だれのためのビジョンということもあるが、外から見ている人がいる事を意識してほしい。宣言的な要素も大事である。
- 次世代とともにあるべき県土の姿を取り戻すということは、ビジョンの大切な視点だと思う。

2. ビジョン策定のプロセスについて

- 市の計画等を踏まえる等、ボトムアップでビジョンを策定していく事が望

ましい。教育現場でのワークショップ等、現場の状況を踏まえた意見を取り入れられる最適回路をいかにみちびきだせるかが重要。ワーキンググループを作ることも必要。

- 沖縄はコーディネーター、プロデューサーが不足している。ビジョン策定で、ワーキンググループをつくることはいい発想。地域でのビジョンづくりを活発にすることが大事だ。
- 沖縄県のビジョンなど大きなエリアになると、なかなか意見を出しにくい。小さい地域に関するビジョンだとだといろんな意見がでる。質のよい議論を行うことが必要。よいトップダウンとボトムアップのマッチングが重要。
- ボトムアップによる計画策定は時間がかかり難しいが、コーディネーターのスキルによって意見がだされ、集約される。コーディネーターはこれまでの計画や資料等の情報を読み込むことでスキルアップに繋がる。
- ファシリテーター、コーチングにより次世代を担う中高生からの意見をボトムアップすることはとても時間がかかり、議論を深めることは難しい。
→学生がメインターゲットであるが、県民を喚起する点から幅広く呼びかけたい。ビジョンは大きな姿であり、その後、各論の段階でワークショップ等は開催する予定。
- 沖縄のあるべき姿は漠然とはイメージできると思うが、本来は各論でたたき上げ、県民全員で認識した上でワンワードにしていくべきだと思う。
- 本来は、シンポジウム、フォーラムをもっと細かくやり、地域の人たちと対話しながら策定していくべき。今、沖縄に関して議論するとてもいい機会が与えられている。
- どういう風にビジョンを策定していくかのプロセスが大事であり、できあがった言葉はキャッチフレーズではなく、方向性を示すような言葉ができたらい。
- 北米には、計画を策定する上でのプロセスを専門的に研究しているプランニングという教科がある。質のいい議論を踏まえたボトムアップによる計画等の策定は、とても難しいことである。
- 計画策定をする際、フォーラム、アリーナ、コート等の形式で計画が策定されていく。県もそういった手法を利用しながら、ビジョニングを踏まえ、独自のプロジェクトとしてビジョンを策定していくべき。

3. 県民とビジョンを共有するためにやるべきこと

- 時間が限られた中、地域フォーラムやシンポジウムをとおして、県民に本気のビジョンをつくっていく思いを伝えることや、県民全体で20年後の沖縄の約束を持つことが大事。
- 世代、地域、職業などそれぞれで意見が異なると思うが、まずは県民全体で大きなビジョンを描き、ビジョンができた後の各論部分で訴えかける演出も必要になってくる。
- 各論の際にプレーヤー ディレクター、プロデューサーが必要となるが、分野別に実質的なコーディネーターを育成すべき。コーディネーターは、単なる批評家ではなく、一緒に努力してやっていく血がかよった人材を育成し、県民に訴えていくべき。
- シンポジウム、フォーラムをとおして基地のプラス面、マイナス面を話すなど現実をきちんと伝えて追っていくと、県民は考える。ハピネスを得るためにリスクを背負うことを迫ることが必要。クレドのように、沖縄県民であるための誓約に近いことを真剣に打ち出さないと、自分たちで考えることをしない県民性になっていく。
- 基地に関しては、言っても無駄じゃないかと思う現実がたくさんある。あるべき姿を語ろう、そして事実はどうだという話をすると、フォーラムなどで県民は燃えると思う。
- ビジョンをみんなで考えるプロセスも大事だが、考えてきたビジョンをみんなで確認することも大事。ビジョンの基礎となるミッションステートメントに多くの人に参加し、正しいことを言うだけでなく誰がその正しいことをきちんと伝えるかが重要。また、その伝え方がクールじゃないといけない。
- 今、キューバ革命の検証や脱アメリカをしたキューバが注目されている。キューバは、経済面で苦しいがゆったりとした生活を送っている。農業政策、医療環境の面などで、基地のない沖縄のモデルだと思う。キューバは革命を起こさざるを得ない状況だったが、沖縄は自分たちで革命を起こさないと行けない。インパクトのある発言をしていかないと、県民には響いていかないとと思う。
- 将来の沖縄を描く上で、変えてはならないもの、目指すべきものは何かということを中心に県民に問いかけてみてはどうか。県民がビジョン策定の議論に参加していくと、いい意見が出ると思う。

4. ビジョンにおける基地問題について

- 基地の存在は何故問題かを経済の視点からみると、市場原理とは異なり、自己増殖せずに固定されていることにあり、基地による経済発展に限界があるといえる。
- 2030年の沖縄像を考える上で、全ての基地が返還されていないのであれば、それとどう向き合うかを考えるべき。米軍基地を平和のために利用することも考えていいのではないか。
- 基地による所得を株主化し、不労所得ではなく誇りを与え、財産を運用管理していく仕組みにすると、県民の財産として将来活用できるのではないか。
- 既得権がある方々の利益を返還後も継続させることは、無理だと思う。一方、基地は日本の国益を軍事面で担保し続けた場所なので、返還から跡地利用まで、100%国は責任を持つべきだ。これは一種の戦後処理であり、国と地元が協力し合わないといけない。その際、事業主体と財源が問題で、既存の制度では限界があり、特別立法などが必要だ。
- 基地が安全保障の面から必要というのであれば、応分の負担を求めるなど、きちんとした考えを打ち出す必要がある。

5. 基地跡地利用と県土づくり、都市計画について

- 基地の返還ロードマップはあるが、跡地利用のロードマップがない。10年以上経ないと利用できない土地があるなど、課題が多い。
- 普天間基地跡地について、都市計画、街づくりに移行する場合を考えると、国、県、土地所有者などそれぞれの守備範囲でしか議論せず、トータルの指揮者がいないという問題がある。
- 21世紀ビジョンで基地はどうするかを考えたとき、様々な議論はあろうが、基地は縮小していくと考えられ、2030年に跡地をどういう街にしたいかという視点から議論を進めていきたい。
- 現在、基地跡地有効利用ビジョンについて検討されており、その中で21世紀ビジョンを念頭に県民にとって跡地利用はどうあるべきかという観点から議論を進めている。跡地利用は、ビジョンの大きな構成要素の一つであり、試金石になってくると思うのでそれなりの考え方を打ち出しておくべき。

- 沖縄には空間の思想があったと思う。基地跡地利用は、沖縄独自の街づくり、景観、環境を再生するなど、あるべき県土の姿をとりもどす意味合いもある。
- 普天間跡地は、国有公園にしてもいいのではないか。沖縄には海洋博、首里城の2つの国有公園があるが、海、歴史を象徴する公園に次いで、跡地を平和の公園としてはどうか。
- 跡地利用を市場原理に基づいて進めていくことは難しい。次の世代にポテンシャルが活かされるよう、長期ビジョンに基づいて都市づくりをしていくことが大切。

6. 都市計画、街づくり、ヒューマンスペースについて

- 人々が求める本物の都市、街を提供すると逆に市場がよってくる。
- 市場は野放図ではなく、ルールが必要。沖縄の景観、風景を守るため、モデルケースを示し、沖縄に適応する都市計画を進めるべき。
- 沖縄は、新しく来た人が魅力を感じてくれるカッコいい空間、ウォーターフロントが必要だ。例えば、湿地は経済価値がないので埋め立てる傾向にあるが、そのまま活かすなど、いい空間を残しておくことも大事。
- 街づくりのコンセプトは、次世代を踏まえたユニバーサルデザイン、サステナブルデザインである。ヒューマンな空間を作るため、意思決定は行政、県民相互の議論を重ねることが望ましい。
- 沖縄では、外の意見を入れていい都市計画ができると思う。沖縄は優秀なプランナーとしてのDNAがある。青写真を訴えかけていけるような人材が必要。
- 空間に関して、持続的に資産形成をしていく、人間尊重の思想を視点として考えることが大切。空間に関しては、時間軸を念頭に考える方針が必要。

7. 部会で議論すべきこと、部会の役割について

- 部会の役割として、沖縄の将来像であるビジョンを県民のコンセンサスを得られる形でどうまとめていくか、また、どのような方法で検討していくべ

きかを考えていくことが必要。

- 今回事務局から提示された資料は、完成形ではなく、ビジョンのカテゴリーとして漏れがないかなど調整の段階だ。ここで表記されている解決方法は、今後の政策指針になっていく大事な部分だと思う。ビジョンは今後の県政策全ての骨になるものということを念頭にいれながら、議論していくことが大事。
- この部会で、まだ、将来のあるべき沖縄、沖縄をどうしたいか等、コアな部分の議論が足りない。コアな部分を煮詰めたコンセプトの下に将来像を描き、各論に移るべき。沖縄をどうしたいかを中心に委員の皆様は議論を戦わせて欲しい。
- 新しい邦、ガバナンス、地域を自立的にどうマネジメントしていくか、議論を重ね、指針をこの部会で整理していければいい。
- 今回の部会では、ヒューマンコミュニティ、空間などビジョンの重要な項目について議論ができた。今後は、ビジョンのコンセプトについて各委員から意見をだし、各論に進めていくべき。沖縄において変えていけないもの、目指すところについて議論を深めながらコンセプトを確立していきたい。

8. その他

- 日本から海外へ産業を進出させるとき、沖縄で産業転換して海外へ進出するモデル産業を振興すべき。
- 先人が残したモノを大事に受け継ぎながら、未来を考えていくのが今後のテーマだと思う。